

**9月9日は
「救急の日」**

「救急の日」は、救急業務及び救急医療に對して皆さんの理解と認識を深めていただくとともに、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に昭和57年に定められました。以来、毎年9月9日を「救急の日」として、この日を含む1週間を「救急医療週間」としています。

応急手当の重要性

けがや事故などによる大出血や、心肺停止状態となり救急車で搬送される人の数は毎年増加しています。しかし、救急車が到着するまでの間に、その場に居合わせた人（バイスタンダー）が適切な応急救置を速やかに行うことによって、傷病者の救命効果が一層向上します。

最近では、心停止が起こったときに、一般の人でも使用できるAED（自動体



外式除細動器）が、駅や公共施設など様々な場所に設置されています。一人でも多くの人の命を救うために一人ひとりが心肺蘇生法やAEDの使い方を習得しておくことが必要です。救急車が、出動要請があつてから現場に到着するまでの時間は全国平均で6分。常陸大宮管内では地理的環境により8分位かかります。

その場に居合わせた人（バイスタンダー）が傷病者に対して何もしないと、手当に当たるとでは蘇生率がまったく違うのが証明されています。



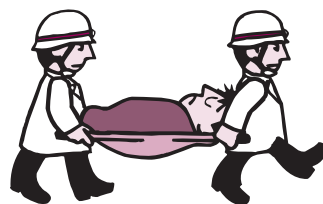
いつ、どこで大切な家族や友人等が事故や病気で突然倒れてしまふかわかりません。そこで、勇気を持って手当に当たることがとても大切です。

救命率の向上のためには、住民による応急手当、救急隊員の応急救置と搬送、医療機関での処置のスムーズな連携が不可欠であり、

連携プレーの第一歩が、応急手当からはじまるのです。

救命講習を受講しよう！

常陸大宮市消防本部では、毎月第4土曜日に普通救命講習を実施しています。心肺蘇生法、AEDの取り扱い、異物除去法、止血法などを行い、3時間の受講となります。終了後に終了証を発行しています。受講料は無料です。



救急車の適正利用をお願いします

全国的に救急出動件数は年々増加しています。救急要請件数の増加は高齢化が進んだことや、救急車を身近なものと感じるようになったからですが、反面、最近ではごく容易に救急車を呼ぶ風潮（明らかに軽症である場合の利用やタクシー代わりの利用）があるのも事実です。

消防が救急車の適正利用をお願いする理由。それは安易な救急車利用により救急車の稼働率が上がると、重篤なケガや病気に対して到着が遅れ、1分1秒を争う助かるはずの命を救えなくなってしまうからです。



**あなたの大切な人の命を
救えなくなることを心配しています…**